様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　９ 月 ２７ 日現在

機関番号：１３３０２
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2018～2021
課題番号：１８Ｈ０３４５９

研究課題名（和文）観光地域における資源戦略のための地域資源の高度利用プロセスの研究

研究課題名（英文）Biocultural diversity and rosource ulilization

研究代表者
敷田　麻実（SHIKIDA, Asami）

北陸先端科学技術大学院大学・先端科学技術研究科・教授

研究者番号：４０３０８５８１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　10,600,000円

研究成果の概要（和文）：地域資源を活用する際に地域資源の「資源性」と「文化性」に関して引き続き研究を進めた。観光地域における資源の開発、資源化プロセスに着目し、地域に存在する自然環境から「生態系サービス」を生み出すプロセスを「地域資源戦略」と定義し、資源の高度利用メカニズムを明らかにした。特に、知床地域、白山国立公園、長野県の高原草地など、新たな資源開発が盛んな地域の資源を対象として事例調査を行った。その結果、地域資源の変換には、特定の要因がかかわっていること、地域資源への人々の関与が影響すること、自然資源も文化的な資源としての価値を持つことを明らかにしてきた。また、和文および英文で論文・書籍を刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
生物文化多様性の概念を整理した上で、研究成果を応用した理解しやすい説明や解説を含む専門書にまとめることができた。研究分担者、研究代表者の行った事例調査結果をとりまとめ、講談社から成果報告として著作「はじめて学ぶ生物文化多様性」として出版した。出版に当たっては、生物文化多様性について専門分野の異なるチームで執筆する強みを生かし、事例と理論の両面から執筆した。

研究成果の概要（英文）：Urban creativity has been considered as one of the key elements in the field of urban development this century. It has accelerated social structural changes and innovations in urban areas. Meanwhile, urban areas heavily depend on the supplies and various ecosystem services from the natural environment of surrounding areas. However, this could not be sustainable because of the shrinking population and industries of rural areas. This study examines biocultural diversity to argue about a new relationship between urban and rural areas. This can be seen as new social phenomena that can build a bilateral relationship between urban consumers and rural producers. The idea is based on the cultural diversity generated by affluent ecosystem services, can attract urban population to visit rural areas, and thus local products can be consumed more in urban areas. This study also points that intermediaries could play a significant role for facilitating this process.

研究分野：資源戦略

キーワード：生物多様性　文化多様性　資源戦略　観光資源

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

観光地域の中には、自然環境を観光資源として利用した結果、過度な利用や自然環境の破壊を招いた地域も少なくない。しかし、2000 年代以降、自然環境のもたらす便益が「生態系サービス」として議論され、MA(ミレニアム生態系評価)によって国際的にも「生態系サービス」の概念として提示されるようになった（MA, Millennium Ecosystem Assessment, 2007）。もともと生態系は「財」として固有の価値、「存在価値」を有すると考えられていたが、「Millennium ecosystem Assessment」では、生態系を人が利用する際に生ずる価値を生態系サービスとして明確にした。さらに同アセスメントでは、光合成や土壌形成など生態系サービス全体を支える「基盤サービス」、食糧や木材などを提供する「供給サービス」、気候調整など環境を維持するための「調整サービス」、そしてレクリエーションや教育などの精神的や審美的な利益を提供する「文化的サービス」の 4 つに分類している。このうち供給サービスや調整サービスは、資源利用や気候調節などの具体的な便益であり、私たちの生存に欠かせない。一方、生態系サービスのうちで、非物質的なものは「文化的サービス」として位置づけられた。自然を楽しむエコツーリズムや環境教育がその典型例である。この文化的サービスは、個人にとって便益が認識しやすい身近な生態系サービスである。生態系サービスとは、生態系から受け取る自然環境の恩恵を経済的に評価したものであり、サービスと呼ぶことで認識可能になった。MA では、特に自然環境から生まれる観光やレクリエーション機会、環境教育などの恩恵を「文化的サービス」に位置づけている。

しかし、文化的サービスはその内容を明確にしないままで議論されてきた(Pleasant et al., 2014）。そこで、自然環境から文化的サービスを生み出す仕組みやプロセスを明らかにできれば、観光地域でも文化的サービスを生み出し、観光資源としての地域コンテンツを豊潤化できる。本研究の核心は、自然環境の資源化プロセスを、従来の資源開発や加工ではなく、「自然環境からの文化的サービスの創出」として捉え、そのプロセスを分析する点にある。

２．研究の目的

本研究の目的は、観光地域における資源の開発、資源化プロセスに着目し、地域に存在する自然環境から生み出される「生態系サービス」を生み出す創出プロセスを「地域資源戦略」と定義し、資源の高度利用メカニズムとして文化的サービスの創出プロセス、資源を連続して生成・利用する「n 次利用」の仕組みを明らかにすることである。

自然環境のような地域資源から価値を生み出すことは、地域の経済や社会活動を進めるための基本であり、観光のような地域外の観光客の消費に依存する経済活動では、資源の効果的利用は重要である。しかし、従来の観光地域における自然環境の利用は「開発」として自然保護側から批判的に捉えられ、開発よりも資源の保護や保全が重要な研究テーマとされてきた。そのため、限られた資源からいかに効果的に価値を生み出すかという視点が軽視されてきた。本研究がフォーカスしている「自然環境からのインスピレーションや着想をベースに文化的サービスを生み出す仕組みやプロセス」を明らかにできれば、消費する資源の量的な拡大を求めなくても、質の向上を図ることができ、結果的に観光資源を豊潤化できる。本研究では、地域資源を保護や保全の視点だけではなく、効果的に利用することで、持続可能な観光地域を実現する、資源からの高度な価値創出の仕組みやプロセスを分析した。さらに本研究では、自然環境から多様な文化的サービスを連続して生成・利用する「n 次利用」を分析した（敷田, 2016）。n 次利用はメディア論やアニメ研究で議論されてきたが、自然資源に拡張する議論はなかった。そこで、自然環境から文化的サービスを創出し意味づけしていくプロセスを、コンテンツ化や自然環境の高度な資源化と捉えて考察した。

３．研究の方法

研究代表者と分担者が選定した調査対象地域でのフィールドワークによって、聴き取りや記録から得られた情報をまとめ、定期的な研究会で議論することで、モデル化する方法を採用した。定期的に研究会を開くことで、分担者の得た知見を共有し、新たな発想を得ることを意図した。

４．研究成果

地域固有の生態系との関わりから生み出された文化は、人が生態系を利用する際の行動にも影響する。つまり文化の存在を前提としない生物多様性や生態系サービスの議論は不可能である。ここで文化とは、人が生態系サービスを使うために生態系に働きかける際に生ずる、生態系との関わり、プロトコルである。また伝承や共有されるだけではなく、建築物などのモノに変換され、社会を形成する資産となっていることを明らかにした。

生態系サービスとしての文化的サービスは重要だが、文化そのものに対する注目が近年高まっている。2005 年にはユネスコ総会で「文化的表現の多様性の保護と促進に関する条約」が採

択され、地域の固有文化の重要性が示された。また UNEP とユネスコが開催した円卓会議「持続可能な開発のための生物多様性と文化多様性」では、フランスのシラク大統領(当時)が、経済・環境・社会と文化が同等の重要性を持つと発言していることからも明かである。

言語を含む多様な伝統文化の維持のためには、地域生態系の多様性が欠かせない。言語や伝統文化などで、生物多様性と文化多様性の関連が示唆され始めている。一方、1988 年にブラジルのベレンで行われた「国際民族生物学会」ではそれが明確に示され、「生物文化多様性(Biocultural diversity)」と呼ばれるようになった。それ以降、研究者も徐々に注目し始め、①言語と生物多様性、②生物文化多様性の評価、③生物文化多様性の喪失の 3 テーマで主に研究が進められている。しかし、生物と文化の両多様性を研究する分野横断的な考察が必要であり、多くの研究が行われているとは言えない。指数的に論文数が増加している「持続可能性」に比較して、まだまだ研究は端緒に就いたばかりである。また、今までの研究対象は、伝統文化と生物多様性の関係が中心で、現代文化への言及がほとんどなかった。そのため、都市や現代文化と生物多様性の関係は議論されずに現在に至っている。

このように生態系と文化を同時に考えるメリットは、生物と文化のそれぞれの多様性にだけ注目すれば、生物多様性はいわゆる「田舎(非都市部)」が高く、逆に都市は自然が少ない人工的な空間である。また、都市では現代文化が活発に生成され、文化多様性が生じている。伝統文化をどうにか維持している田舎の状況とは対照的であることをモデル化した。

都市公園などの都市内生態系を除き、都市は多くの生態系サービスを田舎から得ている。都市の「内なる自然」は最小化し、「外なる自然」を安く手に入れて経済発展を遂げてきた。さらに近年は、現代的な文化創出と多様性を基盤とした「創造都市モデル」が主流である。そのため、文化多様性と創造性に富み、都市内自然も豊かな都市と、伝統文化と生物多様性保全を担わされる田舎との間に「乖離」が起きている。

しかし世界人口 72 億 4400 万人の 54%が都市に居住し，2050 年には 66%が都市生活者になると言われる中、都市が田舎から資源を調達して効率的に経済的利益を確保し、逆に資源を都市に提供して田舎を維持するモデルは失われつつある。そのため「新たな田舎像」が必要になっている。そのためには、田舎が主に担ってきた生物多様性の維持と、都市の持つ文化多様性および現代文化の創出を結びつける工夫が必要である。その点で、生態系と文化の相互作用を重視する方向性や指標としての生物文化多様性に期待できることは大きいことを示した。

以上本研究では、地域資源を活用する際に地域資源の「資源性」と「文化性」に関して、地域資源を活用する際に地域資源の「資源性」としての強みを活かすか、加工度を上げて「文化性」の強みを活かすかの選択について分析した。観光地域における資源の開発、資源化プロセスに着目し、知床地域、白山国立公園、長野県の高原草地など、新たな資源開発が盛んな地域の資源を対象として事例調査を行った。また、海外比較事例としてスウエーデンゴッドランドの世界遺産地区を調査し、地域資源の観光資源化について分析した。調査と並行して、研究分担者メンバーの参加と関連する分野の研究者を招聘して研究会を行った。

地域に存在する自然環境から「生態系サービス」を生み出すプロセスを「地域資源戦略」と定義し、資源の高度利用メカニズムを明らかにした。その結果、地域資源の変換には、特定の要因がかかわっていること、地域資源への人々の関与が影響すること、自然資源も文化的な資源としての価値を持つことを明らかにしてきた。その結果はそれぞれの分担者の専門分野で発表や出版した。

また、研究分担者、研究代表者の行った事例調査結果をとりまとめ、講談社から著作「はじめて学ぶ生物文化多様性」として出版した。この研究で得られた概念である生物文化多様性のわかりやすい教科書、入門書を作成することができた。出版に当たっては、生物文化多様性について専門分野の異なるチームで執筆する強みを生かして執筆した。その際に、地域資源の「文化資源化プロセス」を元の自然と創り出された文化サービスを比較し、規則性やパターンを分析した。もともとあった優れた生物文化資源に多重の意味を付与することにより、人と生態系とのかかわりによって生じるプリミティブな文化が高度な文化と直接結びつくことが明らかにできた。その他にも和文および英文で論文・書籍を刊行した。

（参考文献）

Millennium Ecosystem Assessment（2005）Ecosystems and Human Well-Being: Synthesis, Island Press,137p.

Pleasant, M. M. et al.(2014) Managing cultural ecosystem services, Ecosystem Services, 8, pp.141-147.

敷田麻実（2016）「文化的サービスに注目した自然資本の n 次利用」,『環境経済・政策研究』,9（2）,pp.61-63.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計25件（うち査読付論文　15件／うち国際共著　4件／うちオープンアクセス　15件）

１．著者名 菊地直樹・西村武司・岸岡智也・伊藤浩二・北村健二・山下英輝・森宏一郎	４．巻 18(1)
２．論文標題 能登里山里海マイスター育成プログラムによる移住促進に関する調査報告	５．発行年 2021年
３．雑誌名 滋賀大学環境総合研究センター研究年報	６．最初と最後の頁 21-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 淺野敏久・清水則雄・佐藤大規・菊地直樹	４．巻 12
２．論文標題 東広島市におけるエコミュージアム見学ツアーの需要	５．発行年 2020年
３．雑誌名 広島大学総合博物館研究報告	６．最初と最後の頁 101-108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 菊地直樹・豊田光世	４．巻 9
２．論文標題 兵庫県豊岡市「コウノトリ育む農法」参加者を対象としたアンケート報告	５．発行年 2021年
３．雑誌名 野生復帰	６．最初と最後の頁 11-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Naoyuki Nakahama, Kei Uchida, Asuka Koyama, Takaya Iwasaki, Masaaki Ozeki, Takeshi Suka	４．巻 29(7)
２．論文標題 Construction of deer fences restores the diversity of butterflies and bumblebees as well as flowering plants in semi-natural grassland.	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Biodiversity and Conservation	６．最初と最後の頁 2201-2215
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s10531-020-01969-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kei Uchida, Asuka Koyama, Masaaki Ozeki, Takaya Iwasaki, Naoyuki Nakahama,Takeshi Suka	4．巻 250
2．論文標題 Does the local conservation practice of cultural ecosystem services maintain plant diversity in semi-natural grasslands in Kirigamine Plateau, Japan?	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Biodiversity and Conservation	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.biocon.2020.108737	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Asuka Koyama, Kei Uchida, Masaaki Ozeki, Takaya Iwasaki, Naoyuki Nakahama, Takeshi Suka	4．巻 24(1)
2．論文標題 Conservation of endangered and rare plants requires strategies additional to deer-proof fencing for conservation of sub-alpine plant diversity.	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Applied Vegetation Science	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/avsc.12553	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 浦山佳恵・須賀 丈・畑中健一郎・連 美綺	4．巻 16
2．論文標題 長野県における盆花採りの衰退と野の花の生育地の消失	5．発行年 2020年
3．雑誌名 長野県環境保全研究所研究報告	6．最初と最後の頁 9-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 畑中健一郎・陸 斉・須賀 丈・竹内玉来	4．巻 16
2．論文標題 長野県内市町村の生物多様性保全の現状認識	5．発行年 2020年
3．雑誌名 長野県環境保全研究所研究報告	6．最初と最後の頁 53-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 須賀 丈・畑中健一郎・尾関雅章・北野 聡・髙野(竹中)宏平・陸 斉・浜田 崇・黒江美紗子・浦山佳恵・堀田昌伸	4．巻 45(1)
2．論文標題 長野県の生物多様性の現状と地域戦略の見直しに向けた課題.	5．発行年 2020年
3．雑誌名 全国環境研会誌	6．最初と最後の頁 45-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 敷田麻実	4．巻 9(1)
2．論文標題 新しい観光まちづくりへの期待と観光地経営	5．発行年 2021年
3．雑誌名 観光学評論	6．最初と最後の頁 5-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 敷田麻実	4．巻 17(2)
2．論文標題 観光分野のリカレント教育における産学連携の可能性と課題	5．発行年 2021年
3．雑誌名 産学連携学	6．最初と最後の頁 78-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 敷田麻実	4．巻 14(1)
2．論文標題 不要不急とされる観光の脱成長	5．発行年 2021年
3．雑誌名 環境経済・政策研究	6．最初と最後の頁 63-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 湯本貴和	4．巻 935
2．論文標題 コロナ危機は生態系からの警告である	5．発行年 2020年
3．雑誌名 世界	6．最初と最後の頁 105-114
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 湯本貴和	4．巻 86(11)
2．論文標題 ポストコロナの世界：いまこそグリーン・リガバリーへ	5．発行年 2020年
3．雑誌名 農業と経済	6．最初と最後の頁 4-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 菊地直樹・山崎由貴子・大谷竜・斉藤清一	4．巻 5
2．論文標題 ジオパークにおけるガイドの活動実態および意識に関する調査	5．発行年 2022年
3．雑誌名 地域資源とジオパーク	6．最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 森重昌之	4．巻 57(2)
2．論文標題 コロナ禍における北海道釧路市の長期滞在者の動向－外部環境の変化に対応した観光のあり方の模索	5．発行年 2022年
3．雑誌名 阪南論集 人文・自然科学編	6．最初と最後の頁 79-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Naoyuki Nakahama, Kei Uchida, Asuka Koyama, Takaya Iwasaki, Masaaki Ozeki, Takeshi Suka	4．巻 26
2．論文標題 Identification of source populations for reintroduction in extinct populations based on genome wide SNPs and mtDNA sequence: a case study of the endangered subalpine grassland butterfly Aporia hippia (Lepidoptera; Pieridae) in Japan.	5．発行年 2022年
3．雑誌名 Journal of Insect Conservation	6．最初と最後の頁 121-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s10841-022-00369-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Matsuda I, Clauss M, Tuuga A, Sugau J, Hanya G, Yumoto T, Bernard H, Hummel J.	4．巻 7
2．論文標題 Factors affecting leaf selection by forgut-fermenting proboscis monkeys: New insight from in vitro digestibility and toughenss of leaves.	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Scientific Report	6．最初と最後の頁 42774
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/srep42774	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Matsuda I, Ihobe H, Tashiro Y, Yumoto T, Baranga D, Hashimoto C.	4．巻 -
2．論文標題 The diet and feeding behavior of the black‐and‐white colobus (Colobus guereza) in the Kalinzu Forest, Uganda.	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Primates	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 須賀 丈・畑中健一郎・尾関雅章・北野 聡・髙野(竹中)宏平・ 陸 斉・浜田 崇・黒江美紗子・浦山佳恵・堀田昌伸	4．巻 45(1)
2．論文標題 長野県の生物多様性の現状と地域戦略の見直しに向けた課題	5．発行年 2020年
3．雑誌名 全国環境研会誌	6．最初と最後の頁 45-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 福山貴史・敷田麻実	4．巻 23
2．論文標題 地域づくりにおける「負の資源」の活用プロセス―北海道紋別市の流氷の価値創造の事例―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日本地域政策研究	6．最初と最後の頁 64-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 呉星辰・敷田麻実・坂村圭	4．巻 24
2．論文標題 非公共セクターによるICTを用いた公共サービスの供給に関する研究―日本のCode for Xを事例として―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 日本地域政策研究	6．最初と最後の頁 58-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 菊地直樹	4．巻 31
2．論文標題 コウノトリの野生復帰と市民調査：順応的プロセスの視点から	5．発行年 2018年
3．雑誌名 水資源・環境研究	6．最初と最後の頁 23-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 新　広昭・敷田　麻実	4．巻 47(3)
2．論文標題 自治体における生物多様性と文化多様性をつなぐ政策デザインのためのモデル構築	5．発行年 2018年
3．雑誌名 環境情報科学誌	6．最初と最後の頁 96-101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 須賀　丈	４．巻 23
２．論文標題 地域資源のデザインと生物文化多様性への視点	５．発行年 2018年
３．雑誌名 WILDLIFE FORUM	６．最初と最後の頁 8-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計30件（うち招待講演　0件／うち国際学会　2件）

１．発表者名 愛甲哲也・蓑内ゆい
２．発表標題 Repeat Photography を利用した国立公園での 自然景観・文化的景観の経年変化
３．学会等名 日本造園学会2021年度全国大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 菊地直樹
２．発表標題 グリーン化する社会の環境社会学－グリーンインフラにどう向き合うか－
３．学会等名 第64回環境社会学会大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 淺野敏久・清水則雄・菊地直樹
２．発表標題 エコミュージアムにおけるリアルとデジタル－広島大学総合博物館の試みから
３．学会等名 2021年人文地理学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 森重昌之・敷田麻実
２．発表標題 誰が観光資源化を決定するのか－資源化における正当性
３．学会等名 観光学術学会第10回大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 須賀 丈
２．発表標題 長野県の生物多様性とそれを脅かす４つの危機の現状
３．学会等名 信州昆虫学会2020年度公開シンポジウム
４．発表年 2020年

１．発表者名 須賀 丈・畑中健一郎・黒江美紗子
２．発表標題 生物多様性ながの県戦略は2030年にむけて何をめざすべきか
３．学会等名 日本生態学会 第68回大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 須賀 丈・畑中健一郎・浦山佳恵・小山明日香・内田 圭
２．発表標題 木曽馬文化と伝統的草地管理の再生に向けた協働アプローチ
３．学会等名 日本生態学会 第68回大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 種村聡子・敷田麻実
２．発表標題 観光における人材育成研究のレビュー―観光人材、地域人材、観光教育のかかわり
３．学会等名 観光学術学会第11回大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 Satoko Tanemura, Naoko Ngaishi and Asami Shikida
２．発表標題 A study on human resource training programs in Tourism: Case of Ishikawa, Japan
３．学会等名 6th World Research Summit for Hospitality and Tourism
４．発表年 2021年

１．発表者名 湯本貴和
２．発表標題 生物文化多様性の概念とその可能性の中心
３．学会等名 第25回「野生生物と社会」学会　金沢大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 須賀　丈
２．発表標題 農村地域における在来知の再生と生物文化多様性の保全
３．学会等名 第25回「野生生物と社会」学会　金沢大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 須賀　丈
２．発表標題 生物多様性保全と観光による地域づくりの連携
３．学会等名 日本生態学会第67回大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 内田奈芳美・坂村圭
２．発表標題 オーセンティシティの読み取り方に関する試論（その２）-金沢市をケーススタディとして-
３．学会等名 日本建築学会
４．発表年 2020年

１．発表者名 敷田麻実･能勢峰
２．発表標題 観光における自然資源の文化資源化のプロセスの分析と課題
３．学会等名 文化経済学会＜日本＞ 2019 年度 研究大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 SHIKIDA Asami and NOSE Takane
２．発表標題 Innovation or irrelevance? Images created by visitors with smart technology as a tourism resource: the case of Shiretoko national park in Japan
３．学会等名 Sustainable Tourism in the Digital World（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 森重昌之･敷田麻実
２．発表標題 地域外関係者の地域活動へのかかわりの促進要因の分析―北海道釧路市の長期滞在事業を事例に
３．学会等名 観光学術学会第8回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 呉星辰・敷田麻実
２．発表標題 データから知識へ：シビックテックのオープンデータ活用から学ぶ
３．学会等名 第25回「野生生物と社会」学会　金沢大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 森重昌之・内田純一・敷田麻実・海津ゆりえ
２．発表標題 地域外関係者のかかわりの類型化による観光ガバナンスの実践―北海道釧路市の長期滞在事業を事例に―
３．学会等名 第34回 日本観光研究学会全国大会研究発表会
４．発表年 2019年

１．発表者名 清水苗穂子・海津ゆりえ・森重昌之・山本清龍
２．発表標題 地域主導型観光における推進組織のあり方に関する一考察－三重県鳥羽市・京都府美山町・兵庫県出石町の比較分析
３．学会等名 第34回日本観光研究学会全国大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 清水苗穂子・海津ゆりえ・森重昌之・山本清龍・九里徳泰
２．発表標題 地域主導型観光における推進組織のマネジメントに関する研究
３．学会等名 日本観光研究学会第60回研究懇話会
４．発表年 2020年

１．発表者名 坂村圭
２．発表標題 生物文化多様性を活かした都市政策と新たな価値の形成
３．学会等名 第25回「野生生物と社会」学会　金沢大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 坂村圭・北畠拓也
２．発表標題 金沢市の用水路を取り巻く地域政策
３．学会等名 第10回北陸地域政策研究フォーラム
４．発表年 2019年

１．発表者名 菊地直樹
２．発表標題 絶滅危惧種利用の順応的プロセスデザイン
３．学会等名 第66回生態学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 菊地直樹
２．発表標題 「持ちつ持たれつ」の順応的プロセス：コウノトリとシマフクロウからの示唆
３．学会等名 鳥学会2018年度大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 菊地直樹
２．発表標題 環境活動の「見える化」ツール：エコミュージアム活動のコミュニケーション促進に向けて
３．学会等名 日本エコミュージアム研究会2018研究大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Tetsuya Aikoh, Maogi Wang, Reiko Gokita, Yasushi Shoji
２．発表標題 Trends and awareness of foreign visitors in National Parks ; a case study of National Parks in Japan
３．学会等名 The 9th International Conference on Monitoring and Management of Visitors in Recreational and Protected Areas（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 内田奈芳美
２．発表標題 創造都市政策と人を呼ぶ都市空間の関係　モントリオール市における実践
３．学会等名 日本建築学会大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 新　広昭・須賀　丈・敷田　麻実
２．発表標題 生物文化多様性のフレームワークによる地域資源の高度利用政策
３．学会等名 野生生物と社会学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 敷田麻実
２．発表標題 地域に定住する外部専門家の役割と評価に関する考察
３．学会等名 第8回知識共創フォーラム
４．発表年 2019年

１．発表者名 須賀　丈
２．発表標題 生物文化多様性：地域デザインでどう考えるか
３．学会等名 日本生態学会第66回大会
４．発表年 2018年

〔図書〕　計10件

１．著者名 Atushi Ushimaru, Kei Uchida, Makihiko Ikegami and Suka, Takeshi	４．発行年 2020年
２．出版社 Elsevier	５．総ページ数 2600
３．書名 「Grasslands and Shrublands of Japan」. 『Encyclopedia of the World's Biomes, vol. 3』	

1．著者名 菊地直樹	4．発行年 2020年
2．出版社 日経BP	5．総ページ数 519
3．書名 「コウノトリをグリーンインフラ展開の『シンボル』に」『実践版！　グリーンインフラ』	

1．著者名 Yasuhisa Kondo, Terukazu Kumazawa, Naoki Kikuchi, Kaoru Kamatani, Satoe Nakahara, Natsuko Yasutomi, Yuta Uchiyama, Kengo Hayashi, Satoko Hashimoto, Akihiro Miyata, Shin Muramatsu	4．発行年 2022年
2．出版社 Taylor & Francis	5．総ページ数 184
3．書名 「Research Institute for Humanity and Nature: A Japanese center for inter- and trans-disciplinary consilience of socio-cultural dimensions of environmental sustainability」『Instituonalizing interdisciplinarity and transdisciplinarity』	

1．著者名 敷田麻実ほか	4．発行年 2020年
2．出版社 講談社	5．総ページ数 213
3．書名 はじめて学ぶ生物文化多様性	

1．著者名 Naoki Kikuchi and Mitsuyo Toyoda	4．発行年 2022年
2．出版社 Springer	5．総ページ数 -
3．書名 「Trial of Tools to Evaluate Adaptive Processes in Environmental Activities」『Adaptive Participatory Environmental Governance in Japan : Local Experiences, Global Lessons』	

１．著者名 敷田 麻実、湯本 貴和、森重 昌之、ドウノ ヨシノブ、愛甲 哲也、内田 奈芳美、菊地 直樹、坂村 圭、新 広昭、須賀 丈、三上 修	４．発行年 2020年
２．出版社 講談社	５．総ページ数 213
３．書名 はじめて学ぶ生物文化多様性	

１．著者名 佐々木 雅幸、敷田 麻実、川井田 祥子、萩原 雅也	４．発行年 2019年
２．出版社 水曜社	５．総ページ数 320
３．書名 創造社会の都市と農村	

１．著者名 菊地直樹	４．発行年 2019年
２．出版社 公人の友社	５．総ページ数 125
３．書名 グリーンインフラによる都市景観の創造：金沢からの「問い」	

１．著者名 Kikuchi Naoki	４．発行年 2018年
２．出版社 Springer	５．総ページ数 430
３．書名 ransformations of Social-Ecological Systems:Studies in Co-creation Integrated Knowledge Toward Sustainable Futures	

１．著者名 須賀　丈	４．発行年 2019年
２．出版社 築地書館	５．総ページ数 258
３．書名 日本列島の半自然草原――ひとが維持した氷期の遺産	

〔産業財産権〕

〔その他〕

敷田研究室論文掲載ページ
http://www.jaist.ac.jp/~as-asami/
敷田麻実の研究成果web
http://www.jaist.ac.jp/~as-asami/
敷田麻実のWebサイト(研究紹介)
http://www.jaist.ac.jp/~as-asami/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	内田　奈芳美 (UCHIDA NAHOMI) (10424798)	埼玉大学・人文社会科学研究科・教授 (12401)	
研究分担者	森重　昌之 (MORISHIGE MASAYUKI) (20611966)	阪南大学・国際観光学部・教授 (34425)	
研究分担者	愛甲　哲也 (AIKO TETUYA) (30261332)	北海道大学・農学研究院・准教授 (10101)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	菊地　直樹 (KIKUCHI NAOKI) (60326296)	金沢大学・先端観光科学研究センター・准教授 (13301)	
研究分担者	湯本　貴和 (YUMOTO TAKAKAZU) (70192804)	京都大学・霊長類研究所・教授 (14301)	
研究分担者	新　広昭 (SHIN HIROAKI) (90781683)	金沢星稜大学・経済学部・教授 (33301)	
研究分担者	坂村　圭 (SAKAMURA KEI) (30793749)	北陸先端科学技術大学院大学・先端科学技術研究科・助教 (13302)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関